

令和5年度 専門職大学院法務研究科（法科大学院）（B日程）

小論文（未修者）

注意事項

以下をよく読んで、間違いのないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないでください。
2. この問題冊子の3~5ページに問題が掲載されています。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 解答用紙は（そのⅠ）・（そのⅡ）の合計2枚です。解答用紙の追加は認めません。
4. 試験開始の合図があったら、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
5. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。
6. 解答用紙には、黒鉛筆（シャープペンシル可）の他、黒または青の万年筆・ボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははつきり、ていねいに書いてください。解答の文字が読みにくい場合、点を与えないことがあります。
8. 試験中、使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

[このページは空白です。]

小論文（配点 100 点）

前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波書店・2019年）に掲載された以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

「誰にとっても、自分とは違う角度から世界を捉える視点に接することは、新鮮な驚きをもたらすに違いない。ジェンダーの視点を導入すると、これまで見えなかつた男女の不平等が浮き彫りになる。今まで見えていた日本の政治が、あまり民主的に見えなくなる。男性として、極めて標準的な、「主流派」の政治学の伝統の中で育った筆者にとって、フェミニズムとの出会いは、そうした驚きの連続であった。

想像もしない角度から自分の世界観を覆されることは、反省を迫られる体験であると同時に、刺激に満ちた体験でもあった。次に、何が出てくるのか。新しい本を読むたびに、未知の発見があった。何よりそれは、自分が今までジェンダーとは関係がないと考えていた数多くのことが、実はジェンダーと密接に関係していることを知るきっかけとなった。

例えば、国際政治における外交交渉を担う外交官の男性たちの伝記や自伝には、その妻のエピソードが登場することが多い。この種のエピソードにおいて、妻たちはパーティーで社交的に振る舞い、それによって夫の評判を高める役割を果たす。これは、今日でも極めて一般的な外交のイメージであるが、考えてみれば不思議なことではないだろうか。「国益」を追求することを旨とするはずの冷徹な男性たちの駆け引きが、実際には女性たちの無償労働を必要としていることを意味するのだから。

1945年8月、米軍が広島と長崎に原子爆弾を投下したことの是非をめぐっては、今日でも論争が続いている。日本側の被爆者とその遺族らから見れば、原爆投下は非人道的な殺戮であるのに対し、アメリカでは原爆投下が戦争終結に必要だったという議論が軍人を中心にいまだ根強い。この論争の中で長く忘却されてきたのは、女性の役割である。原子爆弾を製造するためのマンハッタン計画を主導した科学者たちの大半は男性であったが、核物質を抽出する危険な作業を担った労働者の多くは女性であった。こうした女性たちの役割は、近年のアメリカで再び注目されつつある。

一度、ジェンダーの視点をあらゆることに適用できることが分かると、世界の

見え方が違ってくる。そして、どのような政治的現象を見ても、「では、女性はどこにいて、何をしているのだろうか」「あの政治家が行った選択は、その人が男性だったことと、関係があるのだろうか」などと問い合わせる習慣が身に付いてくる。

ジェンダーの視点から眺めることで、世界の見え方がこれほど変わらなければ、そのことを最初から知っておきたかった。自由主義やマルクス主義があらゆる政治現象を説明する道具立てを備えているのと同じように、フェミニズムもあらゆる政治現象を説明する論理を持っているということを、知っておきたかった。だからこそ、これから政治学を学び始める人には、そのことを早い段階で知っておいてもらいたい。本書は、このような動機から執筆されている。」

「自分が思いもしなかった考え方には、ふと出会う。そのような体験を繰り返していると、世界を捉える視点の多様性に敏感になる。例えば、明治維新という出来事を、新政府が誕生した東京から見ると、琉球処分によって日本に併合された沖縄から見るとでは、その意味は自ずと異なるであろう。あるいは、本書でも取り上げたジェンダー・クオータ※は、女性を政治的に代表するには有効な仕組みだが、おそらく性的少数者を代表するために用いるのには適さないであろう。

社会の主流派とは異なる視点を政治学に導入することは、政治の捉え方を大きく変える。それによって、従来は問われてこなかった様々な問題が浮上し、それを解くための様々な回答が提示される。その過程で、政治学は学問としてより豊かになるだろう。本書で見てきたように、ジェンダーの視点を導入することで、これまで社会の主流派としての男性の視点から描かれてきた政治の風景は、しばしば劇的に変貌する。』

※ ジェンダー・クオータとは、一般にクオーター制と呼ばれる制度であり、政治代表における男女の不均衡を是正するため、候補者や議席の一定割合を女性に割り当てる仕組みのことをいう（出題者注）。

設問 1

下線部分について、その意味する内容を自分の言葉で具体的にまとめなさい。
なお、解答は解答用紙（その I）に行うこと。

（配点 50 点）

設問 2

ジェンダーの視点に立つことにより、あなた自身が、どのように社会を捉える視点の多様性に敏感となるか、具体例を挙げながら説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（その II）に行うこと。

(配点 50 点)

[このページは空白です。]